

令和 3 年 6 月 30 日現在

機関番号：99999
研究種目：奨励研究
研究期間：2020～2020
課題番号：20H00838
研究課題名 通常の学級の一斉指導の中で発達障害児がともに学べる5年生新出漢字の指導方法

研究代表者

杉本 陽子 (SUGIMOTO, YOKO)

飯塚市立飯塚小学校・小学校教諭

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 480,000円

研究成果の概要：一斉指導の中で個々の困難に応じた支援が可能となる新出漢字の支援教具の開発、指導方法の工夫をした。指導方法は、読みの先行学習から始め、支援教具は『イラスト付き漢字カード』『運筆の方向体感ボード』等がある。支援教具を活用した指導やゲームなどの活動を通して、読みや意味理解を確かにしていった。これらを通して、漢字を覚えることや書くことに抵抗があった児童が、漢字練習に意欲的に取り組むようになっていった。種々の支援教具が使われたことで、児童の学習意欲が高められ、教師も画一的な指導から実態に応じた指導に切り替えるなど、指導に工夫が加えられるようになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小学校での漢字指導は、学年が進むにつれて難しくなる傾向がある。漢字の読み、書き、意味理解は全ての学習の基礎基本であり、日々の授業の中でそれが深い学びをもたらし、考えを広げることにもつながると考える。これは、学校生活だけでなく社会人となった後も生活を支える重要な部分である。

小学校での漢字学習を通して、児童が自分に合った学び方を見つけ、漢字学習に取り組むことで、将来にわたり児童が必要とする知識・技能の獲得にもつながり、豊かに生きていく力を支える一歩となっていくと考える。

研究分野：新出漢字の指導のための支援教具の開発及び指導方法の工夫。第1学年から始め本年度は第5学年の取り組み。

キーワード：特別支援教育 漢字教材 通常の学級

1. 研究の目的

読み方が難しくなり熟語が増える、意味によって漢字の使い分けが多様化するなど、漢字学習が一層難しくなる第5学年で、個々の困難に応じた指導を継続的体系的にまとめた指導方法や支援教具などを作成し、効果的な指導や支援の在り方を明らかにしたい。

2. 研究成果

指導方法として、読みの先行学習を行うこと、熟語の読み・意味・使い方に慣れさせる、ゲーム感覚で楽しく学習に取り組む活動や、体感させながら字形を確認する活動、漢字への抵抗感や負担感を和らげる漢字練習や漢字テストなどが含まれている。支援教具は、『イラスト付き漢字のフラッシュカード』『運筆の方向体感ボード』『漢字と意味・使い方のマッチングカード』『なぞり書き漢字練習ボード』などの6種類を開発活用した。

その結果、漢字を覚えることが難しかった児童は、フラッシュカードを活用した漢字クイズや、漢字と読み方のマッチング練習、ピングゲームに夢中になりながら、漢字を繰り返し見て・聞いて・声に出して読むうちに、読みを確かにしていった。

また、イラスト付き漢字カードの絵と文字を関連付けて覚える方法を使うことで、記憶がスムーズになり「漢字の勉強が楽しくなった」と嬉しそうに言って、休み時間も読み練習をする児童の姿も見られるようになった。書くことが苦手な児童は、鉛筆を持って漢字を書く前に、『漢字のなぞり書きボード』を活用して、なぞり書きをしながら、線の長さや運筆の方向などの確認を丁寧にしていくことで、自信をもって書き取り練習ができるようになったり、漢字のパーツを正しく書く練習ができるようになったりしたことで、文字を正確に書けるようになっていった。

漢字の読みについては、意味付けやクイズなど楽しく正しく繰り返す練習ができたことで、対象児全員が目標を達成できた。書きについては、個々に応じた量を設定し、日々の練習ができれば、必ず結果に結びつけることができる『選択肢付き漢字テスト』や『一目目のヒントがあるテスト』を活用することで、「練習してもどうせ書けない」と思い込み漢字練習から遠ざかっていた児童が、「練習をがんばれば必ず書ける」という意識に変わり、継続的に漢字練習に取り組めるようになった。その結果、書き取りができる文字数を増やしていった。

学習後の児童の感想には、「漢字練習をがんばったらいい点数が取れるようになった」「漢字カードを使っていたら、嫌いな漢字が好きになってきた」「漢字に絵がついているので覚えやすかった」などが書かれていた。

教師からは、「年間を通して漢字指導で活用できる教材が揃っていたので、読み書きが苦手な児童への継続した指導支援ができた」「子どもに合わせて教材の使い分けができたのが良かった」「画一的な漢字指導から、児童の学び方に応じた指導方法に切り替えることができた」「指導を通して、個々の学び方に応じた支援の方法考えるようになった」などの感想があった。

以上のことから、本研究は対象児童のみならず、全ての児童の学びやすさを支え、担任の授業支援にもつながり、指導方法や支援教具が有効であったと考える。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
公文 美貴	(KUMON MIKI)
杉本 伊織	(SUGIMOTO IORI)